

平成29年度 学校経営方針

港区立麻布小学校
校長 黒田 泰正

はじめに

本校は、一昨年度に開校140周年記念行事を終え、今年度は142年目の年である。

ここ2年間、140周年記念式典、港区教育研究奨励校研究発表会（算数科）等大きなイベントが続いた。また、平成28年度には指導室訪問を受け入れ、対外的にも本校の教育活動を発信してきた。多忙な中にも受け入れ態勢を整え、全員が授業を公開し、教職員の授業力と資質の向上の意識は高まってきている。まだ本校にきて数日であるが、これからも常に全職員が港区や地域と協力して、一つ一つのイベントを実現させてくれるという信頼感を得た。

また、教員の人事異動も多くあり、新卒教員や、経験のある中堅の教職員が混じり合うメンバーになった。新卒で入った教員も、初任者研修はもとより、主幹・主任教諭によるOJTの指導で着実に力をつけ、よりよい教師として育ってほしい。

一通りの年間の教育活動は定着しているが、新たな工夫、改善も必要となるであろう。副校長や主幹教諭・主任教諭の考えを取り入れてよいアイデアを生み出していきたい。春(5月)の運動会、秋の学習発表会の時間の設定、また、日常の保護者対応、地域を活用した授業開発や改善等、新たな課題を見つけ出し対処して、より永年に向けて定着できる形を生み出していきたい。

麻布小学校の校舎は、きれいで、まとまった作りで何でもそろっている恵まれた教育環境に感じている。校庭の貸し出しや、幼稚園の運動会の使用等、可能な限り、気持ちよく受け入れる志をもって歩みたい。それにおいても、私たち教職員が真摯に教育・仕事に打ち込む熱い心、誠実さ、日々の研鑽の姿を積み上げていくことが不可欠になってくる。また、麻布幼稚園とともに歩む学校として、協力・助け合いの教育が自然と身に付く環境にあり、申し分のない小学校教育を営めると思っている。

今年度は児童数が昨年度とほぼ等しく、9学級226名のスタートとなった。教職員にはのびのびと力を発揮してほしい。麻布小学校は、ゆとりある時数を確保し、一人ひとりの児童を大切に、よりよく児童を理解していく。そして児童が社会に出たときに自立して生活できることを想定して、基礎学力・基礎体力・豊かな心・思考力・表現力・創造力・規範意識・勤勉、勤労の心、礼儀、節度を「生きる力」として重視して、組織的に効果のある教育活動を目指していく。

小学校教育は人格の基礎を作る大切な場である。児童の思い出を作り、学ぶ意欲と生きる楽しさを教える場である。教師や友達とのよき出会いが子供の人生の方向を決めるといっても過言ではない。したがって教師一人ひとりが「教育は人なり」の自覚のもとに、手本を示し、自分自身を磨き、鍛え、生涯学び続ける信念をもって歩まなくてはならないと考える。

1. 麻布小学校教育目標

東京都教育委員会教育目標、港区教育委員会教育目標(港区教育ビジョン・港区学校教育推進計画)を受けて、全教育活動を通して人権尊重と社会貢献の精神、一人一人の児童の豊かな個性と創造力を育む。

また、児童が心身ともに健康で豊かな心を持ち、生涯を通して自主的に学び、国際社会・地域社会に貢献する意欲をもつように育てていく。そして、規範意識と実践力を育成するために長年の学校目標と校訓を維持し、その具現化を推進する。

教育目標

- 元気な子
- やさしい子
- 考える子

校訓

- 自由
- 規律
- 品格

2. 教育目標の具現化に向けて

- (1) 人権尊重の理念を正しく理解させ、生命を尊重し、思いやりの心を育てる。
- (2) 社会貢献の精神の育成を目指して、児童が地域社会の中で必要な社会貢献ができるようになるための教育活動を推進する。
- (3) 心身ともに健康でたくましく、粘り強い児童の育成を目指す。
- (4) 基礎的・基本的な学力を確実に身に付ける指導法の工夫をしていく。
- (5) 平成29年度の「全体計画」・「年間指導計画」に基づき指導を行う。
- (6) 主幹教諭、主任教諭を生かした学校運営組織のもと、組織的に若い教員の育成を推進する。
- (7) 毎週、週案簿を作成し、管理職決済のもとに意図的・計画的な授業を実践する。
- (8) 内部・外部を問わず「迅速な初期対応と誠意ある言動」を実行していく。
- (9) 「安心、安全」を保障するために、事故・災害に備えての組織を明確にし、安全指導の徹底を図り、訓練を積み危機管理の意識を持ち続ける。

3. 目指す学校像

私の、目指す学校像は次のような学校である。

「児童が学ぶ喜びと、誇りをもち、保護者・地域の人々と共に歩む学校」

麻布小学校の入学式には30人を超える来賓の方がいらしてくださった。しかし、まだ地域とのかかわりは多くはない状況である。

しかし、私は常に、この学校像を念頭に置き、教職員と、保護者、地域の方々とともに歩む。学校公開日・学校説明会・全体保護者会・学校評議委員会・セーフティ教室・道徳授業地区公開講座・その他の行事の開催を通して、保護者や地域へ、教育活動を広く説明・公開し、外部評価を求め、地域・家庭の声をより適用・反映できる「開かれた学校」作りを一層推進していく。

また、以下のような学校作りも目指していく。

(1) 「明るく活気のある学校」

◎児童が目標をもって生活し、「学校に来るのが楽しみだ」という学校にしたい。
そのために、一人一人が尊重される教育を進めていく。児童同士、児童と教師、教師と保護者が相手の立場を理解し、助け合い、励ましあう気運をつくりたいと考える。いろいろな人のおかげで人は支えあっていることを感じさせ、共に生きる姿勢や心を育む。また、あいさつがよくでき、規範意識・礼儀・節度のある児童を育成していく。

(2) 「柔軟で創造性のある学校」

◎ 計画、実践、評価、振り返り（Plan・Do・See・Check）に基づいて実践をしていく。

基礎・基本（不易）と時代の要請へ対応できる**柔軟性（流行）**の部分を学校や教師が持ち合わせるとともに受動的な学力と能動的な学力を育むようにしていく。

（3）「地域から信頼される学校」

◎教職員は教育公務員、地方公務員としての自覚をもち、**児童の為**になっているか、**世の中の常識**にあっているか、**法規に照らしてまちがっていないか**を判断の基準にして行動する。

◎**信用失墜行為の防止、勤務時間やサービス基準の自覚、体罰の厳禁、個人情報**の持ち出しや**車通勤の禁止、守秘義務の遵守等、サービス事項の徹底**を図る。

◎全職員が**危機管理意識**をもつ。児童のけがや問題行動、学級での問題からくる保護者とのトラブルを防ぐためにも、**初期対応を早くし、管理職や、主幹教諭・主任教諭への報告・連絡・相談**を密にしていく。

（4）「礼儀・節度を教え、躰のできる学校」

◎目上の人、友達同士、教えていただいた人、初対面の人、お客様への**最低の礼儀、あいさつ、ことば遣い・もてなし、心遣い等**を、行事・授業・日常のあらゆる場面を通して教えていく。

◎**規範意識・公共のものの使い方、正しいマナー・話を聞く態度等**、社会の常識をとらえ、教職員が共通の意識や行動をとり、家庭にも啓発して育てていく学校を目指す。

4 育てたい児童像

- （1）思いやりのある子（言葉遣い・共に遊ぶ・助け合う・自己肯定感をもつ）
- （2）基本的な生活習慣を身に付けた子（話すこと・聞くこと・後片付け・整理整頓・時間厳守ができる）
- （3）学習の基礎・基本の定着した子（読み・書き・計算・思考・判断ができる）
- （4）意欲のある子（勉強・練習・仕事をしっかりやり、挑戦する心をもつ）
- （5）人や町や学校が好きな子（規範意識・礼儀・挨拶・感謝の心をもつ）

5. 期待する学級のありかた

- （1）先生、友達の話の姿勢を正して、静かに聞くクラス
- （2）基本的な学習・生活のルールがあるクラス
- （3）宿題・提出物が全員きちんと出せるクラス
- （4）補教の先生、学年の先生へお礼のあいさつが自然にできるクラス
- （5）机の上に物が出しっぱなしにならないクラス
- （6）自らの失敗を言い合え、謝れる雰囲気のあるクラス
- （7）黒板も掲示物も戸棚もきれいなクラス
- （8）給食の残がないクラス

6. 校長としての中長期的目標

平成29年度

- ① 校内研究の教科・領域を総合的な学習の時間・生活科とし、教員の授業力の向上と、思考力・判断力・表現力を育成する。分科会、全対会の組織を生かした研究をしていく。

- ② 六本木アカデミー活動で、研究授業、統一した取り組みの充実を図り、全体をリードしていく心構えをもつ。
- ③ 研究奨励校への下づくりをしていく。
- ④ 校内研究の3年計画の立ち上げをする。
- ⑤ 特別支援教室の向上に努める。
- ⑥ オリンピック、パラリンピック教育を進める。

平成30年度

- ① 道徳の教科化に向けての研修を実施する。
- ② 研究奨励校1年目の権利を得る。
- ③ 指導室訪問を受け、教育委員会の指導を受ける。
- ④ オリンピック、パラリンピック教育を進める。

平成31年度

- ① 研究奨励校の発表をする。
- ② 指導室訪問を受ける。
- ③ 保幼小の連携、教育の形を作る。
- ④ オリンピック、パラリンピック教育を進める。

7. 本校の特色ある教育活動と、目標の具現化

(1)学力の向上

① 総合的な学習の時間・生活科での校内研究の充実

研究主題を「わかる できる 楽しむ 授業づくり」とし、授業研究に努め、日常の授業の質を高める。授業の基礎を身に付ける。

②学校公開・授業の公開

学期ごとの学校公開、及び毎月の第一、第三土曜授業日を設定し、授業を地域、保護者に公開していく。防災訓練やセーフティ教室や道徳授業地区公開講座なども土曜日の学校公開に開催していく。

③ 道徳教育の充実

道徳授業地区公開講座、日々の授業や生活を通して、豊かな心や自己肯定感を育てる。人と積極的にかかわることの喜びを経験させる等、道徳教育を充実させる。

④「読書タイム」読書活動の充実

週2回、朝の「読書タイム」を設定し、読書の時間と読書量を確保し、本好きの児童を増やしていく。RAS やボランティアによる読み聞かせもより多く設定していく。

⑤ 国際科の授業の推進

1年生から、国際科の授業を週2時間行い、自国の文化とともに、外国の言葉・文化・生活習慣に慣れ親しむ体験を取り入れ、児童の国際感覚を育てる。

(2) 生活指導・体験学習・朝集会の充実

①特別支援体制の充実

生活指導全体会・校内委員会で、特別支援教室の様子や配慮を要する

児童の共通理解、共通指導を話し合っていく。スクールカウンセラー・学習支援員と連携して、保護者への進言・支援を適切にしていく。個別指導計画を作成して児童指導を深めていく。

② 安全指導、防犯指導

- ・セーフティ教室を実施する（10月）。SNSの正しい使い方、不審者進入を想定した対応を学ばせていく。
- ・通学路点検を実施したり、児童の安全の確保をしたりしていく。
- ・地域安全マップを作成し、全校に啓発したり、指導をしたりしていく。
- ・避難訓練、集団下校、引渡し訓練、交通安全教室等を実施していく。
- ・防災訓練（6月）は区の防災課や町会・地区防災協議会と連携して行う。

③ 奉仕活動・地域清掃

「ちょこボラ」と名づけた年4回の地域清掃を通して、自分たちの町をきれいにしていく環境への心を育む。保護者・支所にもできれば参加してもらい協働していきたい。

④ 「麻布のやくそく、きまり」の指導

- ・生活のきまり
- ・学習のきまり
- ・校外でのきまり を全校で徹底指導していく。

⑤ 朝の活動の充実

- ・全校朝会
- ・運動朝会
- ・音楽朝会
- ・児童集会
- ・読書タイム
- ・出張スピーチ
- ・ふれあいタイム
- ・その他(歯科、ユニセフ、オーストラリア等の集会)

(3) かかわりの活動の工夫

① 六本木アカデミーによる六本木中学校との連携活動

※六本木アカデミー主題「自分の考えをもち、表現し、伝え合う子供の育成」
六本木中学校との連携では、アカデミーによる研究授業公開をお互いにしあう。教員同士の交流、研究授業の参観や講評、生徒会の説明、部活体験、学校見学等を実施する。子供サミットにも参加し、内容を充実させる。

② 六本木アカデミーによる東町小学校・南山小学校との交流

近隣の小学校と連合行事等、共に歩むようにして、同じ地域の小学校として、尊重しあう心の育成を図る

③ 異学年縦割り班交流

異学年で活動する場を設定していく。全校遠足(5月・わくわくハイキング)では、縦割り班で活動し、高学年が低中学年の世話をする。なわとび、遊び、給食等学年を超えて定期的に交流し、お互いを尊重しあう心を育む。

④ 交流活動を生みだしていく

インタナショナルスクール、大使館、地方や島の学校、地域の企業・各諸

機関、施設、などとの交流活動を生み出していく。

おわりに

麻布小学校の教職員は新しい時代に入る。ベテランの教員が中心の中で、活発で明るい中堅・若手教員が協力しあってよりよい時代にしていきたい。新しく来た教員にも期待している。ぜひこれからの麻布小学校を創ってほしい。麻布小学校は、課題も当然あるだろうが、教職員の人柄は皆すばらしい。誠実で相手を思いやれる。一生懸命さもあり、楽しさもある。わたしが目指す学校を実現してくれる集団である。

新しく来た教職員には、ぜひ、経験してきたことがあれば提案したり、意見したりしてほしい。次のことを心掛けて教育活動をすすめてほしい。

- ・学年会に時間をかけ、日々一所懸命やってほしい。
- ・子供たちにまかせずに必ず指導を入れてほしい。
- ・礼儀やことばづかひの躰をしてほしい。
- ・会議でも、自分の意見はどんどん言い、決まったらきちんと守ってほしい。
- ・厳しい日程でも、期日を守り責任をもってほしい。
- ・先輩の先生方が若手の先生に時間をかけて、よく教えてほしい。
- ・礼儀や服装の乱れにも気を付けてほしい。
- ・研究では、時間をかけて何回も話し合い、実践しあい、質を高めてほしい。
- ・これからも温かい雰囲気でいごちのよい職員室であってほしい。

校長として、これらを願い、そして指導をしていく。また、校長として、教職員を大切にし、気持ちよく働ける環境を作り、更に力を伸ばすように育てていきたい。